

医療政策サミット2011

February 26, 2011 Saturday
ホテルニューオータニ(紀尾井町)

「医療政策サミット2011」プログラム

テーマ:健康・医療政策による新たなコミュニティの構築

2007年より毎年開催されてきた日本医療政策機構による医療政策サミット。歴代の厚生労働大臣をはじめ、日本の医療政策を形成するトップリーダーが一堂に会し、その年の医療政策のあり方を議論する場として恒例となりました。2011年は多様な国内外の有識者とともに「成長戦略」、「持続可能な社会」という2つのキーワードを中心に医療健康課題を深掘し、議論いたします。本年は、議論の場から一步踏み込み、サミットを具体的な政策提言を形成する場として機能させるべく、ワーキンググループによる事前会合により重要課題を絞り込み、サミットにおいて課題解決の方向性を議論し、会場のご意見も踏まえながら、事後に政策提言にまとめます。さらに、米国の政策シンクタンクの雄CSIS(戦略国際問題研究所)と連携し、国内外にインパクトを持ち得る政策提言を策定します。

■日時 2011年2月26日(土)9時30分～19時00分

■場所 ホテルニューオータニ(紀尾井町)
ガーデンコート 宴会場階 (5階) シリウス/アリエス

■プログラム

時間	シリウス	アリエス
9:30-10:30	【開会の辞】	
10:30-12:00	【高齢社会と健康・医療政策 ～新たな“きずな社会”の構築に向けて～】	
	ワーキングセッション1: 持続可能な地域医療 ～あるべき地域医療計画のつくり方～	ワーキングセッション2: 高齢社会に求められるコミュニティ発想 ～日本モデルの挑戦～
12:15-13:45	【いま求められる成長戦略とイノベーション・ポリシー】(昼食会)	
14:15-15:45	【日米医療政策プロジェクト ～CSIS+日本医療政策機構 特別合同パネル～】	
	ワーキングセッション3: 支払制度から考えるあるべき医療	ワーキングセッション4: 医療ITの活用による医療の効率化と質の向上
16:00-17:30	【新しい医療のかたち ～グローバルかつマルチステークホルダーで考える新たな医療に向けて～】	
17:30-18:00	まとめ/閉会の辞	
18:00-19:00		レセプション

【開会の辞】 9:30-10:30 (60分)

- ・岡本 充功(厚生労働大臣政務官)
- ・黒川 清(日本医療政策機構代表理事)

【高齢社会と医療・健康政策 ～新たな“きずな社会”の構築に向けて～】 10:30-12:00 (90分) 分科会

高齢化率が20%を超え、超高齢社会に突入間近とされる日本。少子化と相まって人口構造が変化するなか、新たな健康・医療政策が求められています。他先進国の中でも飛び抜けた少子高齢化が進む中、どのような社会モデルを世界に提供できるのか。何を「幸せ」と定義するのか。日本の挑戦に今、世界の注目が集まっています。当セッションでは、医療政策の視点のみならず、健康、コミュニティ、地域社会といったテーマを見据えながら、あるべき国家ビジョンを議論します。

ワーキングセッション1: 持続可能な地域医療 ～あるべき地域医療計画のつくり方～

医療制度改革関連法が2006年に成立し、地域医療計画には、医療の質の向上を図るために医療計画を活用するという観点が付与されました。その後、2008年にスタートし、4疾病5事業に焦点を当て、慢性疾患対策の充実等が図られた現行の地域医療計画。5カ年計画の終了する2013年3月まで残り2年程です。次期計画の策定に向けた検討会も、第一回目が2010年末に開催されました。では、果して地域医療とはそもそも何なのか。誰がどのようなプロセスで地域医療計画を策定していくべきなのか。都市部と地方で医療の実情は異なり、疾病によっても必要な医療連携は異なるかもしれません。独自色が求められる一方で、共通のアウトカム評価や基準によるチェック機能の必要性も求められます。当セッションでは、当該分野の第一人者が「地域医療計画のつくり方」を原点に立ち返り議論し、あるべき姿とやるべきアクションを提案します。

スピーカー

- ・永井 良三(東京大学大学院 医学系研究科内科学 教授)(モデレーター)
- ・鴨下 一郎(自由民主党 衆議院議員)
- ・中川原 譲二(医療法人医仁会 中村記念病院 脳神経外科診療本部長 脳卒中センター長)
- ・平井 愛山(千葉県立東金病院 院長)

ワーキングセッション2: 高齢社会に求められるコミュニティ発想 ～日本モデルの挑戦～

高齢者の独居や孤独死という問題が頻繁に取り上げられる一方で、既存の施設を再活用したり市民社会ネットワークを活性化することによるコミュニティの再構築、核家族化した団地におけるITやリモートケアを使った相互扶助システムなど、好事例やモデル事業も生まれています。既存のインフラやイノベーションを活用した伝統的で斬新な、斬新で伝統的なコミュニティ作りの知見を結集し、新たな「日本モデル」を提言します。

スピーカー

- ・武藤 真祐(祐ホームクリニック 院長/NPO法人ヘルスケアリーダーシップ研究会理事長)(モデレーター)
- ・井上 肇(千葉県健康福祉部 理事)
- ・小西 洋之(民主党 参議院議員)
- ・クリスティーナ・パーソンズ・ペレス(米国がん協会(ACS) 国連関連業務主席代表)
- ・ダニー・リスバーク(株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン 代表取締役社長)

スピーカー

- ・大林 尚(日本経済新聞社編集委員兼論説委員)(モデレーター)
- ・近藤 正晃ジェームス(前国家戦略室長付内閣参事官)
- ・長谷川 閑史(武田薬品工業株式会社 代表取締役社長)

【日米医療政策プロジェクト ～CSIS+日本医療政策機構 特別合同パネル～】

14:15-15:45 (90分)分科会

日米医療政策プロジェクトは、日米が直面している共通の課題に対して調査・研究活動を行い、具体的政策提言を行う初の試みとなります。日本医療政策機構と、米国のシンクタンク、CSIS(戦略国際問題研究所)が協力し、日米各4名、計8名の医療政策の専門家とともに、主要4テーマに対する調査・研究を行い、幅広いオピニオンリーダーと協働し、最終的に政策提言報告書として国際的かつ継続的に発信します。

一年間にわたる当プロジェクトは、上半期と下半期に分かれ、各2テーマについて日米の専門家が調査研究を行います。上半期のテーマは、1. 医療の効率化と支払制度: 米国からの教訓 2. 医療ITと効率化及び医療の安全性の向上。医療政策サミット2011にて、初期報告書をもとに議論提供を行い、多ステークホルダーの意見を集約し、報告書を発表します(2011年7月予定)。また、下半期のテーマは、3. 医療の質と効率性の均てん化 4. 高齢社会における医療連携と医療者育成。2012年の医療政策サミットにて、4テーマ全体の成果発表を行います。

今回のサミットの議論を踏まえ、日米双方の政府、民間、アカデミア等の幅広いステークホルダーと協働を通じ、多様な視点を取り入れた、現実的かつ戦略的な医療政策の提言を目指します。

ワーキングセッション3:**支払制度から考えるあるべき医療**

医療費は増大を続け健保組合の解散なども相次ぐなか、医療の効率化、医療費の適正化が求められています。その方向性のひとつとして、日本でも入院医療において診断群分類包括評価制度であるDPC/PDPSが導入されました。また米国でもメディケアにおいてDRG-PPSが1983年から導入されており、疾患別関連群ごとの包括支払制度が確立されています。ライフ・イノベーションによる健康大国戦略が策定されるなか、医療費の適正化を求めながらも、患者が求める医療や、医療の質的向上、イノベーションの促進をどのように担保していくのか。高齢社会や財政状況の悪化など同様の課題を抱えながらも支払制度改革に挑む日米の比較から今後のあるべき医療の姿を考えます。パネルでは、日米の学識者の発表を中心として、英国事例のエキスパート、政府高官、産業界を代表するオピニオンリーダーに結集して頂き、議論を深めます。

スピーカー

- ・ブライアン・バイルズ(ジョージワシントン大学 教授)(モデレーター)
- ・ジェラルド・アンダーソン(ジョンズ・ホプキンス・ブルームバーグ公衆衛生大学院 教授)
- ・池上 直己(慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室 教授)
- ・迫井 正深(厚生労働省保険局企画官)
- ・竹之下 泰志(マッキンゼー・アンド・カンパニープリンシパル)
- ・田澤 裕光(みらかホールディングス株式会社 執行役専務)

ワーキングセッション4:**医療ITの活用による医療の効率化と質の向上**

医療ITやEHR(電子健康記録)の導入により、医療情報の共有化とそれによる医療の効率化や医療の質の向上が世界各国で見られつつあります。医療機関、検査機関、保険者、公的機関、地域社会、医療関連企業が適切で安全な管理の上で、医療情報を共有することで、大きなインパクトを効率性と質の両面で上げています。

米国においては、景気刺激関連法案(ARRA)のひとつである医療IT促進関連法(HITECH Act)が2009年2月に成立し、連邦レベルの包括的かつ巨大な医療IT促進のイニシアティブが始動しました。この歴史的なイニシアティブを検証することは、日本における医療IT促進のための今後の戦略策定に寄与することでしょう。当セッションでは、この米国のイニシアティブを振り返りつつ、今後、日本において、患者中心の情報共有システムをどのようなステップで構築し効果を高めしていくべきか、既存の官民のイニシアティブを如何に活かしていくべきか、議論を深めます。

パネルでは、日米の学識者の発表を中心として、米国オバマ政権での医療IT担当者を交えながら、日米の民間、政府を代表するオピニオンリーダーが結集します。

スピーカー

- ・小野崎 耕平(アストラゼネカ株式会社 執行役員・コーポレートアフェアーズ本部長)(モデレーター)
- ・秋山 昌範(東京大学政策ビジョン研究センター 教授)
- ・ジョン ハラムカ(ハーバード大学医学部最高情報責任者/米国医療IT標準化協議会副議長)
- ・宗像 義恵(インテル株式会社 取締役副社長)

【新しい医療のかたち ～グローバルかつマルチステークホルダーで考える新たな医療に向けて～】

16:00-17:30 (90分)

「持続可能な社会」「成長戦略」をテーマに議論を重ね、具体的な指針を模索した今回の医療政策サミット。慢性疾患、少子高齢社会、医療ITなど、新たな医療を形作るうえで、グローバルかつマルチステークホルダーの参画を伴って議論を行ってまいりました。議論の次には、アクションが求められています。一日の議論をもとに、どのようなビジョンと戦略で、医療を動かしていくべきなのか。当セッションでは、一日の議論を総括し、これからの医療が目指すべきビジョンを提示し、次なるアクションの礎とします。

スピーカー

- ・小野崎 耕平(アストラゼネカ株式会社 執行役員・コーポレートアフェアーズ本部長) (モデレーター)
- ・江端 貴子(民主党 衆議院議員)
- ・尾身 茂(自治医科大学、名誉世界保健機関(WHO)西太平洋地域事務局事務局長)
- ・三谷 宏幸(ノバルティスファーマ株式会社代表取締役社長)
- ・山中 伸弥(京都大学再生医科学研究所教授/京都大学iPS細胞研究所所長)
- ・ロバート・ヨール(米国がん協会(ACS)がんアクションネットワーク理事)

【まとめ / 閉会の辞】 17:30-18:00 (30分)

- ・黒川 清(日本医療政策機構代表理事)

【レセプション】 18:00-19:00 (60分)

<了>